

女性活躍推進フォーラムin九州 第3回

上司らの前でプレゼン大会

6社11人の女性社員が参加

人材育成委員会が主催する「女性活躍推進フォーラムin九州」の

今年最終回が11月14日、福岡・博多区の福岡県遊技会館で開催され、6社11人(欠席1人)が参加した。

同フォーラムは、業界で働く女性社員の働き方向上やスキルアップを目指して行われているもので年間全3回開催。実務に役立つセミナーと、女性活躍につながる実践可能な企画の立案に向けたグループディスカッションで構成され、この日は1年間かけて練ってきた企画を参加企業の上司らの前で発表した。

の具体的な段取りの確認を行った。優勝はAチーム

「思いやり手当」を提案

夕刻、企業から招待した役員らが会場入りし始まったプレゼン大会では冒頭、人材育成委員会の前田竜哉委員長があいさつ。「みなさんが現場で活躍していただくための推進力としてこの会合を活かしてもらいたい。今回の発表内容を持ち帰って社内でも人事部などに届けて実現につながるようがんばってもらえれば」などと話した。

プレゼン大会では、Aグループが、出産や育児など女性ならではの理由による休みで店舗が適正人員割れした場合、働く人の時給が欠けた人数×15%アップする「思いやり手当」の導入を扱った「スマイルプロジェクト」、Bグループは、女性の雇用環境の不安定さや仕事とプライベートの両立に悩むなど、問題を抱えるスタッフに対して最適なプランを提案する「キサルタントを育成・配置する「キ

ヤリアプランナーの設立、Cグループが、一部の業務に特化した才能をもつ職人型プレイヤーを適正に評価する「スキル評価制度の導入」というテーマで、それぞれ熱弁。審査員となった上司から「男性からは出てこないであろう、女性ならではの着眼点や発想が非常に参考になった」「アイデアを承認する上司の側にも大きな責任がかかっている」などの意見が寄せられた。



九州支部
福山裕治支部長



人材育成委員会
前田竜哉委員長



各グループ、上司を前に堂々とプレゼンした

審査結果の集計中、来賓の日遊協九州支部の福山裕治支部長がいさつとともに各グループ発表の総括を行い「普段我々が想像しないような意見が出てきたので意義深かった。今後も九州でこうした

フォーラムを続けてもらいたいと思っています。業界発展のため同じ立場にいる人の意見を出してもらうというのは重要なこと。社内に戻ったら上司の方とコミュニケーションを図って業界の発展につなげてもらいたい」などと語った。

優勝したのは「思いやり手当」の導入を提案したAグループ。

最後にあいさつした人材育成委員会の前田委員長は「今や、1人の天才が業界を引っ張っていくことも、会社を引っ張っていくことも、店舗を引っ張っていくこともない。これからはチームの時代。チームのコミュニケーションでお客様に向かっていく、という業界になっていかなければならないと思う。その点、今回の参加者の皆さんは見事にチームとなって課題に向かってくれたと思う」と今期全3回のフォーラムを総括した。

人材育成委員会

11月8日
本部会議室
出席委員等7人

レポート作成し報告へ

人事関連の課題審議

継続審議となっている業界の人事関連課題の整理と研究について話し合った。今年度の事業目標は人材労働環境予測のレポートを作成し報告することとした。「生産性向上」をメインテーマに5つの課題をすでに設定しており、年内に各項目内容の確定と整理を行い2月のレポート完成を目指す。来

年度以降では誰でも閲覧し事例共有できるように、人材労務にまつわるホームページの作成やフォーラムの開催なども検討している。

そのほか女性活躍推進フォーラ

SDGs勉強会

広報調査委の佐藤氏が講演

社会貢献・環境対策委と合同開催

社会貢献・環境対策委員会と広報調査委員会が11月22日、本部会議室でSDGs（＝持続可能な開発目標）に関する勉強会を合同で開催した。両委員会から32人が出席した。

SDGsとは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2030年までの国際目標のことで、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され「地球上の誰一人として取り残さない」ことを掲げている。日本でも経団連が本格的な取り組みを表明したり、教育機関が積極的に取り上げたりと大きな流れとなっている。カラフルなデザインモチーフを模したバッジをつける人も増えている。

ム最終回について確認を行った。来年度の女性活躍推進フォーラムは5年の事業計画における最終年となるため、どのように展開するか次回委員会の課題項目とした。



2つの委員会から合わせて32人が勉強会に参加した

日遊協は9月の理事会で、これまで取り組んできた社会貢献活動とSDGsの連動性を問う声があがったのを一つの契機として研究に着手。その後、広報調査委員会の副委員長で、企業IR、CSR活動をはじめSDGsにも詳しいゲンダイエージェンシー㈱の佐藤聖子氏が中心となって活動に向け

た地ならしを始めていた。

今回開催された勉強会は、本格的な取り組みを前にした最初の啓蒙活動として行われたもの。日遊協の内部におけるSDGsについての正しい認識を、まずは社会貢献活動の中心となっている社会貢献・環境対策委員会と、広報分野に精通した広報調査委員会の2委員会を足掛かりにして広めていく。

合同勉強会では、佐藤氏のSDGsに関する解説を聴講し、意見交換を行った。佐藤氏は講演のなかで、SDGsが教育の現場でも広がりをもち始めていることや企業向け融資において指標の一つとなっているケースがあることを指摘。「企業がこの現実を知らないというのは大きなリスク」などとして取組みの重要性を強調した。

これに対して委員からは「日遊協の行う社会貢献活動をSDGsに当てはめるのはもとより、その流れのなかで何ができるのかを検証することが重要だ」とする意見などがあがった。

会合では社会貢献・環境対策委員会の福地光委員長がSDGsに関する活動においても、まとめ役となっていくことが承認された。